

令和2年度の住吉区区政運営（令和2年度住吉区運営方針の取組）について、区政会議委員の評価を受けるため評価シートにより実施した。

※構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%としない場合がある。

- ・ 対象 区政会議委員（24人）
- ・ 実施時期 令和3年6月
- ・ 回収状況 24人（回収率100%）

### 設問① 各経営課題において取り組んだ内容は、総合的にみて、めざすべき将来像の実現に有効であったと思いますか？

#### 【経営課題1】安全で安心して暮らせるまちづくり

##### 〈めざすべき将来像〉

・防災、防犯、交通安全の取組を進め、安全で安心して暮らせるまちをめざす。

##### 〔評価結果〕

4 思う	(8人)	33.3%
3 やや思う	(10人)	41.7%
2 あまり思わない	(6人)	25.0%
1 思わない	(0人)	0%

##### 〔評価理由〕

#### 4 思う

- ・ 地域のパトロールカーや警察とも連携がとれているのではないかと思います。
- ・ 区民の意識が徐々に浸透してきていると思う。
- ・ 警察署・消防署とも地域行事に積極的な参加姿勢で、身近な情報発信も頻繁に地域課より発信されている。
- ・ 盗難、ひったくりの被害額の実績は良いとは言えないが、役所や地域の至るところで注意喚起ができており、課題が明確になっている。
- ・ 区の防災訓練を年1回行う事で防災に対する意識も向上していると思う。今後も1人でも多くの方に防災訓練を広めて欲しい。

#### 3 やや思う

- ・ 梅雨時には、広報すみよしやホームページにてハザードマップを紹介し、住民に防災意識を高める意識を促している。浸水エリアを掲示板や電柱に表記している箇所が見える。
- ・ 地域においても、防災には力を入れてやっている。交通安全については、不安な面が残る。
- ・ コロナ禍ではあるが、感染予防に努めながら、防災訓練ができた。放置自転車が少なくなった。
- ・ 防災訓練等、参加人数等縮小せざるを得なかったため、つながりの大切さが十分に対応できにくかった。
- ・ 全般的に努力はされていると思うが、プロセス指標が「未達成」であり、評価が「順調でない」ものも少なくないので。
- ・ コロナウイルス感染症の関係で思うように進めないと思う。
- ・ 昨年度から今年度にかけては、新型コロナの影響により取組がストップしているため、理由としてあげることは難しい。
- ・ 市営住宅に災害時一時避難所のステッカーが貼られているが、その住宅に十分な説明がない。

## 2 あまり思わない

- ・町会未加入者へのフォローを早期に進めていくべきと思う。
- ・コロナ禍で、活動が制限され、全体への周知や取り組みにより良くなったと感じる区民の割合が低かった。周知の方法についてはコロナ禍でもできる方法を再考すべき。
- ・ホームページやDVD、YouTube を活用した啓発とありますが、周知は足りないように感じる。
- ・ある種やむを得ない面もあるが、コロナ禍のもとでも実施できる手法の開発が求められる。
- ・災害に対して安全なまちや治安が良いと感じている区民の割合が目標値に達していない点。

## 【経営課題2】高齢者、障がい者等だれもが心地よく暮らせるまちづくり

### 〈めざすべき将来像〉

- ・地域の様々な福祉的課題の解決に取り組める環境づくり、区民の健康づくりの取組を進め、だれもが心地よく暮らせるまちをめざす。

### 〔評価結果〕

4 思う	(4人)	16.7%
3 やや思う	(10人)	41.7%
2 あまり思わない	(10人)	41.7%
1 思わない	(0人)	0%

### 〔評価理由〕

#### 4 思う

- ・高齢者への対応は大変良く進められていると思う。
- ・ほとんどの項目で、プロセス指標が「達成」されており、評価が「順調」であるので。

#### 3 やや思う

- ・コロナ対応で大変な状況だったと思うが、「いきいき百歳体操など」継続して活動した地域では、閉じこもりがちな高齢者にとって有意義であったと思う。
- ・特に地域座談会等の開催が先送りになっているのが気になる。
- ・地域の見守り支援室を休むことなく、地域の相談窓口として開けることができた。
- ・コロナ禍のため、地域のイベントはほぼ消失しているが、運営方針については賛同できる。
- ・コロナ禍においても百歳体操や検診、講習会など工夫して継続されていた点、またそれらを支援してきた点。
- ・CSW や地域包括支援センターが地域の社会資源と連携していくことが、コロナ禍でも大変重要と感じる。

#### 2 あまり思わない

- ・プロセス指標は、相談件数やアンケートをもとに策定されており「だれもが」と言えるかどうか分からないため。
- ・コロナウイルス感染防止による事が大きく、取組が出来ていない印象がある。
- ・コロナ禍において、高齢者等のイベント交流の喪失による情報共有不足が目立ち社会的弱者の居場所の喪失、メンタル不安定に繋がるが多かった。
- ・地域地活協単位で取組んでいるが、社協・民生・支援センターほかの情報ばらばらでしか機能していないと思われる。
- ・コロナ禍もあってだと思いが、全体的に知る人で知る取組になっているように感じる。
- ・コロナの影響で、集う事ができず、孤立してしまっている状態だった。様々なアナウンスが「ホームページを見て」「スマホで確認」となっており、ついていけない高齢者が取り残されている事がある。
- ・コロナの影響でつながる場がなかった。コロナ明け後は、つながりの場を多く作り心地よく暮らせるまちづくりを目指して欲しい。
- ・高齢者、障がい者等の当事者活動への支援が弱い。

### 【経営課題3】安心して子育てができ地域の実情にあった教育が展開されるまちづくり

#### 〈めざすべき将来像〉

・こども及び子育て世代への支援、学校教育への支援等により、安心して子育てができ地域の実情にあった教育が展開されるまちをめざす。

#### 〔評価結果〕

4 思う	(5人)	20.8%
3 やや思う	(16人)	66.7%
2 あまり思わない	(3人)	12.5%
1 思わない	(0人)	0%

#### 〔評価理由〕

##### 4 思う

- ・小中学校入学の際、選択制を採用している事が大きい。(自宅から最寄りの学校へ行けるなど)
- ・登校拒否を“ゼロ”にする施策が求められていると思う。家庭と学校の連携を密にする環境を強くすることが重要である。

##### 3 やや思う

- ・アウトリーチの活動は評価できるが、それが支援につながっているかは疑問。大変な作業なので更に効率化が必要。基準も見直しが必要。
- ・はぐあっぷはほぼ計画通り実施されたがまだ区民には、知名度が低く情報発信については再考の余地があると思う。虐待ゼロの取り組みの中で拠点づくりはコロナ禍で機会が減少したのは理解できるが子育て専門職の応募がなかった原因を分析するべき。
- ・安心して子育てできる実情かどうか？学校協議会等で地域との連携はできていると思う。
- ・支援や教育内容は分からないが、子どもの安全な通学の見守り環境は出来ていると思う。
- ・こどもの将来のライフプラン支援事業など一過性のイベントに終わらず、継続を望む。SSWの役割は重要である。配置の充実、市行政とのより深い連携を望む。
- ・「はぐあっぷ」「SSW」等の実績が評価できる。認知度を上げていくのが課題。
- ・コロナの影響で虐待を疑われる世帯は孤立し、今まで以上に他者からわかりにくい状況となっている。
- ・SSWやSCの配置により不登校児童、生徒の支援ができています。かかりつけ医との連携に取り組む点。
- ・全般的に努力はされていると思うが、プロセス指標が「未達成」であり、評価が「順調でない」ものも少なくないので。
- ・SSWと学校の連携の強化をし、未解決の事案を一つひとつ解決して欲しい。
- ・まなび・つながりネットワークがある。
- ・教育会議がある。
- ・こども食堂連絡会がある。
- ・学校選択制の導入、学力テストの結果公表、高校進学先の公表等については大いに疑問を感じるので、効果の有無について、しっかりと検証して欲しい。
- ・大阪市は、識字・日本語教室の事業に取り組んでいる。この活動は、大変重要な活動だと考える。しかし、小・中学校を拠点にしている教室が新型コロナの影響を受けて活動が再開できない状況がある。何とか対策を考えて欲しい。
- ・登下校時の子どもたちの安全・見守りが前進してきた。

##### 2 あまり思わない

- ・緊急事態宣言中、登校の制限下の中、教育の課題が浮き彫りにタブレットの運用も十分に対応出来なかった。各家庭の通信環境の整備を区から大阪市へ要請願いたい。
- ・子育てボランティアがほとんど休止となり、また、子供の登下校時の見守りも中止が多く、顔を見ての声かけが少なかった。

## 【経営課題4】歴史・文化を活かした魅力あるまちづくり

### 〈めざすべき将来像〉

・歴史、文化の伝承を通じて区に愛着を感じられる環境づくりを進めるなど、歴史・文化を活かした魅力あるまちをめざす。

#### [評価結果]

4 思う	(6人)	25.0%
3 やや思う	(10人)	41.7%
2 あまり思わない	(7人)	29.2%
1 思わない	(1人)	4.2%

#### [評価理由]

##### 4 思う

- ・歴史文化の情報発信等コロナ禍ではあったが、SNS等活用して一定の成果が上がったと思う。空き家の有効活用については広く情報提供し、社会福祉等に活用できないか？
- ・“アフターコロナ”を期待して、この時期も積極的にすすめるべきだと思う。
- ・SNSや広報誌などで情報発信を行っていた点。
- ・すべての項目で、プロセス指標が「達成」されており、評価が「順調」であるので。

##### 3 やや思う

- ・イベントも中止が多く、家から出ることが少なかった。
- ・引き続き、SNSやインターネットなどで幅広い年代に向けて、今後も住吉区の歴史、文化をおもしろおかしく興味を持って来られる発信をしていただきたい。
- ・「すみ博」などの活動でアピールしていると思うから。

##### 2 あまり思わない

- ・SNS上で住吉の歴史の照会をしている事を知らない住民が多い。コロナ禍であるからこそSNSの発信力を高め人気YouTuberが紹介するようなアプローチをお願いしたい。
- ・年齢によってはどう感じておられるのか？
- ・住吉は古代より栄えた地域で、史跡・文化財・著名人が多いが、全体としてアピールしているとは思えない。
- ・コロナ禍の影響もあると思うが、順調と言えるほど区民には伝わっていないように感じる。
- ・この課題に関して、情報を目にする機会が無いように感じる。

##### 1 思わない

- ・正直、個人的にはピン！と来ていないため。

## 【経営課題5】 自律的に地域活動が展開される活力あるまちづくり

### 〈めざすべき将来像〉

・つながりづくりを促進し、地域活動への参加者の拡大や、担い手不足といった地域課題の解決に資する取組を支援し、自律的に地域活動が展開される活力あるまちをめざす。

### 〔評価結果〕

4 思う	(4人)	16.7%
3 やや思う	(9人)	37.5%
2 あまり思わない	(11人)	45.8%
1 思わない	(0人)	0%

### 〔評価理由〕

#### 4 思う

- ・地活協においても、次の世代を育成する人材を発掘する姿が見えていると思う。
- ・各地域では65歳未満の比較的若い人材を求めて活動していると思うが、それを支援すべき具体的な行動を推進してほしい。
- ・人の世話になりたくない、人の世話もしないという風潮に少しでも風穴を開ける活動、PTA青少年指導員等の活動によるボランティア活動への理解と自覚により、地域とのつながりを体験することにより担い手不足の解消に。

#### 3 やや思う

- ・盆踊りの中止、敬老大会の中止等、地域住民の集まりがむずかしかった。年末の夜警は実行でき、良かった。住吉区の歌ができて良かった。
- ・コロナ禍において、難しい課題であるが、方向性については賛同できる。
- ・担い手不足は解消していない。若い世帯が無関心である。
- ・自律的に地域活動が行えるように、いろいろな支援をしている点。
- ・全般的に努力はされていると思うが、プロセス指標が「未達成」であり、評価が「順調でない」ものも少なくないので。
- ・各町会、日々努力されております。引き続き、1人でも多くの方が地域活動を理解していただき、参加していただくよう、活動を続けていただきたい。
- ・地域活動協議会などの取組があるから。

#### 2 あまり思わない

- ・コロナもあり、難しい局面であると思うが、つながり作りの場がほしいと思う。
- ・コロナ禍でイベントや集まりが制限されたことによる打撃は大きいと実感している。特に独居高齢者や母子や子どもたちなど。コロナ禍でのつながりを改めて考え実践に移すようにしたい。
- ・緊急事態やまん延防止措置などで各団体と接する機会が少なくなったので現状は中々難しいがアフターコロナ時に活動が出来なかった期間を取り戻す活動やイベントを地域団体合同で開催してほしい。
- ・担い手不足が課題である。役員を退任しても、後任に以前役員をしていた方がなる等の状況である。住民のライフスタイルも変容しており、自身の生活が中心でボランティアで活動しようとする人がいない。
- ・各地域での差が大きいのではと感じる。担い手不足は大きな課題でしょうが、各地域での解決でしかないのではないか。
- ・地域単位ごとの活動の中では、担い手不足は共通しているが、解決に対する支援なく、地域単位のみが努力している。
- ・区民への周知が最大の課題のように感じる。
- ・ある種やむを得ない面もあるが、コロナ禍のもとでも実施できる手法の開発が求められる。
- ・地域活動協議会が真に地域住民の参加による地域自治の組織になっていないところがある。連合長会と地活協が同じ。

## 【経営課題6】区政改革の推進

### 〈めざすべき将来像〉

- ・区政運営への住民参画の促進、情報発信機能の強化等により、区政改革を推進する。

#### [評価結果]

4 思う	(4人)	16.7%
3 やや思う	(12人)	50.0%
2 あまり思わない	(7人)	29.2%
1 思わない	(1人)	4.2%

#### [評価理由]

##### 4 思う

- ・現行どおりで良いと思う。

##### 3 やや思う

- ・区政会議の意見交換が不十分であり、区政委員からの発題や発表などに時間を設け、的を絞って議論するなど、運営方針以外の話題で進めてもいいのでは。
- ・広報「すみよし」をじっくり読む人が増えたように思う。
- ・区⇒地域⇒町会と拡散するが、情報の持つ意味合いが過程で希薄化する中での発信機能強化は必要と思う。
- ・コロナ禍のため、全体的に消化不良だが、トライしようとする姿勢を評価する。
- ・広報紙やホームページ、SNSでの情報発信を強化した点。
- ・全般的に努力はされていると思うが、プロセス指標が「未達成」であり、評価が「順調でない」ものも少なくない。
- ・広報紙、ホームページに20代・30代が関心を示す工夫が今後もさらに必要だと思います。
- ・区政会議やその他の分野ごとの会議に意識的に区民を参画させている。
- ・区民の意見に耳を傾け、ある程度、反映させていると感じる。

##### 2 あまり思わない

- ・周知しきれていない印象があるが、今後に期待したい。
- ・リアルでの開催は感染リスクもあり開催を中止し残念だった。セミナーや講座などはオンラインでも可能なので形を変えて開催をしてもらえなかったのが残念。区民センターとホールにWi-Fi環境の整備も大阪市へ要請を願いたい。
- ・情報発信機能の強化がどんなものなのかわからない。
- ・区民への周知が最大の課題のように感じる。

##### 1 思わない

- ・区政会議について「資料の読み込みができないから意見が出ない」という分析があることは疑問。「意見をしても仕方ない」ような空気になっていると感じる。

## 設問② 上記のような住吉区の経営課題は、区の目標の実現に有効であったと思いますか？

### 区の目標（何をめざすのか）

「つながり・見守り・支えあい」を大切にした安全・安心に暮らせる住みよいまち

#### [評価結果]

4 思う	(6人)	25.0%
3 やや思う	(12人)	50.0%
2 あまり思わない	(6人)	25.0%
1 思わない	(0人)	0%

#### [評価理由]

##### 4 思う

- ・人と人との接触が制限されている中、本質的な方向性については、賛同できる。
- ・上記の課題自体はこの目標とうまくリンクするように設定されていると思う。

##### 3 やや思う

- ・良くもなく悪くもなくと言った印象である。
- ・テーマはわかりやすいが、実践となるとなかなか前に進んだ感が少ないように思える。特に既存の活動団体以外の団体や人材がより参加できるような仕掛けが必要であると思う。
- ・残念ながら“コロナ禍”において“つながり”の面で目的にはほど遠い現実が浮きぼりになった感じがある。
- ・私の地域では、満たしている気がするが、区内全体の様子が見えない。
- ・コロナ禍でもできることを積極的にしたものもある。
- ・取組は必要で、項目ごとの現状・問題点・課題を明確化し、具体的にどう取り組むかが重要だと思う。
- ・有効だと思うが、区民への周知や共に活動する意識付けがまだまだ必要に思う。
- ・まちぐるみでの見守りの推進、地域活動協議会への支援、地域防災力の向上。
- ・コロナ禍で実現できなかった事も多々あったかと思えます。今後もできる事をこつこつと行って欲しい。
- ・(昨年度の評価シートにも書いたことだが)「誰もが安全・安心に暮らせる住みよいまち」の基盤となる「人権」や「人権尊重」という文字が、「経営課題」や「めざすべき将来像」や「区の目標」に見当たらないことは、実に残念なことだと思う。ぜひ入れて欲しい。また、今後は、「反貧困」や「地球環境保護」といった観点が重要となると思う。

##### 2 あまり思わない

- ・コロナにより、意見交換がしづらかったこともあるが、区政会議での意見交換は以前より減ったと思う。
- ・コロナ禍の影響で声掛けや見守り等の関係性が希薄となり、住みにくい状況となっている。
- ・緊急事態宣言中外出の制限時、不安や心配・孤独になる方が多いからこそ「つながり・見守り・支えあい」を大切にした安全・安心に暮らせる住みよいまちにしないとダメだと思う。
- ・令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、飲食・観光業界ほどではないが自治体行政も大きな影響を受けた。自己評価の中でもさまざまな計画が実施できず、「未達成」評価も多くみられる。もちろん、その中でもさまざまな手法を工夫し、コロナ禍のもとでも当初の計画を成し遂げようとしている様子がうかがえるが、事態の深刻さが上回っているようである。

しかし、住吉区にとって本当に大事なものは、社会の一大事に関係なくコロナ前に作成したプランを実行することに追われることより、コロナ禍で苦しんでいる多くの人を支援し、コロナ禍で地域に発生する多くの課題に取り組む姿勢だったのではないだろうか。

感染を恐れて人との交流を避け家に閉じこもることで心身に不調をかかえたり、ワクチン接種のオンライン予約ができずに不安を抱える高齢者がいたり、一方的な「正義」を振りかざす「マスク



警察」「自粛警察」、また未接種者を地域や職場から排除しようとする「ワクチン差別」といった現象など、緊急に運営方針に盛り込むべき課題は今も山積しているし、現場の職員は直面してきたと思われる。

コロナウィルスとの闘いそのものは区役所業務にはなじまないかもしれないが、コロナ禍から派生する多くの地域課題は数えきれないと考えている。しかし、自己評価の中では「コロナ」という言葉は、未実施・未達成の理由ばかりに多用されているのが目立つ。

変異株の増加によって、コロナとの闘いは令和3年度以降も続きそうであるが、こうした課題に正面から取り組むことなく既定の数値目標の達成度ばかりを気にしては、いつか収束が見えてきたときに「つながりづくり」「見守り」「支えあい」をいくら呼びかけても、区民には色あせて見えてしまい共感が得られないのではないかと危惧している。

- ・総じて、お役人が計画を立て、その是非を議論した事になっている。しかし、実際にやってみるには地元の力が必要であり、それを引っ張り出せるような議論の仕組みを創れていない。委員の質問に行政が答え、私が解決しますパターンでは地元は動かない。町会も人を集められない。人材不足を解消できない。ある程度までは、町会が協力してくれる限り事は実現できるが、本当に目標まで達成できるのか首を傾げる。
- ・当事者の組織化、活動への支援を柱とするとりくみ。老人クラブによる当事者同士の支援組織化など。